

拡大委員会記事

八月二十三日夕、大会プログラム編成のための会合が東京で行われた(有賀・田野崎・北川・蓮見・住谷・中野出席)。

事務局よりあらかじめ大会運営準備期間における諸連絡の予定通知等に関する詳細な手紙と、研究報告申込みとの御送付を受けており、これらにもつき大会プログラムの編成を中心に討議が行われた。大会運営に対する第二回アンケートの大会運営に関する回答もどくはずであったが、これだけは間に合わなかった。

研究報告申込みは一五名あり、しかし、会期が二日で、共同討議に充分に時間をとる必要もあり、一〇名が限度となるため、いくつかを減らすほかないこととなった。せっかく応募していた方々に申し訳ないが、次のような基準で残すものをきめることとなった。

- 一、共同課題「村落共同体」に関する報告ばかりに限定する。
- 二、研究事例となった村々が地域的に各地にわたるように考える。

なお、第二の点で、中国地方、及び関東地方の事例をとりあげた報告を各一つあて新たに依頼、これを山岡栄市・島崎稔両氏に交渉する。もし交渉不成立の場合は、一、二の基準で改善の方法をとる。

その結果できあがったプログラムは別掲の如き内容である。

研究報告をお願いすることとなった諸氏には、九月十日〆切厳守にて、レジュメ(四百字詰二枚程度)を事務局あて送ってもらう。

なお、共同課題についてその問題点を提示する原稿(五枚程度)を中村吉治・喜多野清一両氏に依頼、これも九月十日〆切厳守(送先同様)とし依頼する。

プログラム・レジュメ・問題点提示等は、村研通信№29と同時に同封発送(すべて九月十日〆切、九月中旬発送予定、おそくも九月二十日前後には発送)がのぞましい。

大会の司会者団は、次の人々に依頼する。
井森陸平・小山隆・喜多野清一・有賀喜左衛門・福武直・小池基之・星登博・内山政照・木下彰・中村吉治(順序不同)。

会員名簿の改訂版発行は節約、訂正追加のみとする。

前年同様程度は少くとも大会特別会計へ支出の必要があらうと思われるが、竹内利美氏と事務局とで充分御打合せいただいて決定のこと。大会参加費は去年の大会と同様に、懇親会費を含めて三百円とする。ティプログラムについても同様、充分連絡の上、万誓を期する。

最後に、今秋刊行の年報については、動向欄に新設を予定した民俗学の方だけが、〆切にまにあわなかったため、来年よりに変更したほか、既報予定どおり印刷に廻ったから九月上旬には初校が出るはずとの報告があった。